

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500131		
法人名	特定非営利活動法人コスモス		
事業所名	グループホーム コスモスガーデン		
所在地	太田市西野谷町95-1		
自己評価作成日	令和5年5月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年6月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールの天井は、開放感と採光を摂れるよう高くとり、床暖房も設置し、居心地よい空間となっている。庭には、バリアフリーで自由に行き来出来、四季折々の花が咲き、スタッフと一緒に水やりや手入れをして楽しむことができる。施設職員は、理念に基づき、個人個人の尊厳を尊重できるよう、常にお客様の立場に立った考えのもと、支援するよう努めている。コロナ前は、保育園の子供たちや小学生が慰問に訪れ、互いに交流を持ち、地域に開けた施設となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「個人個人の尊厳を尊重し、地域住民との交流を図りながら…」を掲げ、事業所が最期の居場所でありたいという思いのもと、利用者一人ひとりが生きてきた人生を尊重して関わりたいという考え方を、ケアや行動のすべてに反映させるように、利用者目線で「正しいことなのか」、「だめなことなのか」を決めながらケアに取り組んでいる。また、地域とのつきあいでは、自治会に入り事業所から積極的に地元の情報を取り入れながら、民生委員や区長を介し、事業所と地域の持ちつ持たれつの関係を築いている。介護計画では、入居前からプランを作成して、利用者への適切な支援の早期提供に努めている。日々の記録でもプランに基づいたケアの実施を、日常的にプラン内容に沿って記録し、モニタリングやカンファレンスに活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部]	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、設立当初、スタッフ全員で意見を出し合って作り上げた。毎朝の申し送りの際、職員全員で理念を唱和し、介護に役立っているかを確認している。	理念を意識化して自分のケアを考える機会作りとして、毎日理念を唱和している。理念の根底にある「正しいことをする」を判断基準に、ケア時や申し送り時に利用者にとってこうしたよいのでは等の提案をしつつ、理念に沿った実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クリーン作戦等、施設のもの地域活動に参加している。コロナ前は、地域の夏祭り等に参加し、地域の保育園との交流、小学生との交流があった。	地域とのつきあいを継続させるには「自然体でつきあう」事が大事と捉えている。自治会に入り地域の清掃活動に参加し、新年会では挨拶に事業所の紹介も入れ、交流を図っている。回覧板は情報源にもなり、地域との繋がりに活かそうとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前は、毎年、近くの小学生が総合学習で来訪して、ケアマネジャーから、認知症の症状や支援に大切なことについて説明して、交流の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ前は、運営推進会議は年6回開催されている。その都度意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	コロナ禍前は、2ユニット合同で運営推進会議を開催し、民生委員、区長の参加の他、家族に参加を呼び掛けていた。コロナ禍になり会議の開催は中止し、行事計画やホームでの生活の様子は、毎月家族に文書を郵送している。持ち回り会議の企画は特にしていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段から、市役所には気軽に相談していて、利用者や制度のことなど、その都度相談しながらサービスに取り組んでいる。	事業所方針は「間違ったことはしない、直す事柄があれば修正していく」をモットーに取り組んでいる。そのため給付の加算、緊急時の入居対応等、疑問があればわからない事を確認して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に学習会で、身体拘束をしないケアについて学んでいる。身体拘束に対する指針を作成して、学習会等でスタッフが理解を深められるように努めている。	「拘束はしない」ことを方針に、言動を否定しない見守りの支援を日々実践している。判断困難事例についてはその都度職員間で検討し、身体拘束への共通理解を図っている。更に学習会では具体的事例を基に学習を深め、職員の理解浸透に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の尊厳を尊重できるように日々努めている。また、学習会を通じて、高齢者の虐待について学び、知識を深め、虐待を見過ごされることがないように注意している。		

自己	外部]	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、定期的に学習会で学ぶ機会を設け、今現在は無いが、必要性がある時には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改正の際は、丁寧に時間をかけて説明するように努めている。また、不安な点や質問は、必ず聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時には、近況報告を行い、利用者・家族が気軽に意見を言える雰囲気作りを心掛けている。ケアプランの説明時などでも、困っている事や希望等を聞くように努めている、	運営に関する家族からの意見は特に出でならず、事業所から意図的に意見を聞くことも無いが、外灯の明るさの調整、草むしり、足の不自由な訪問者用の車椅子の準備等、きめ細かい支援を心がけ、運営に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話のほか、毎月の学習会で職員から意見や提案を聞いている。職員の意見から、移動リフトや入浴リフトを導入し、職員の働きやすい職場環境作りを努めている。	日頃の業務の疑問に関しては、常に話し合っている。今年中止していた夏祭りを利用者とともに職員が企画・実施したいと提案があり、予定している。また急な休み・長期休みに対応するため、どのシフトでも業務が出来るよう話し合いをし、協力が得られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の勤務実績状況を把握し、努力を認め、給与水準などに反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を、就業内に持てるように勤務調整している。また、研修で学んできたことを、学習会で伝達講習し、職員全体で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加し、交流する機会を作り、サービス向上に努めている。		

自己	外部]	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に施設を見学して頂き、環境や雰囲気を確認して頂いている。本人の困っていることや不安なことに耳を傾け、安心を確保する為の関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なこと、要望に耳を傾け、より良い関係で本人をサポートできるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前段階で、本人と家族にとって、どのようなサービスが必要かを話し合い、他のサービスが適切な場合は、きちんと説明し対応するよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	面会時に日々の様子をお伝えし、情報を共有し、一緒にケアについて考え、話し合い支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一方的な立場に置くことなく、出来る事は手伝って頂き、昔話をしたり、人生の先輩として尊敬しながら、色々なことを教えて頂きながら、寄り添い支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は、古い友人や、近所に住む親戚の方が訪ねてきたり、家族が面会に来た際には、ラウンジや居室でゆっくり過ごせるように配慮している。また、友人や家族に電話をかけたり、柔軟な支援を行っている。	馴染みを「顔見知り、仲間」と捉えているが、コロナ禍のため、友人に会うことや外出等ができず、関係継続が出来なかったこともあり、事業所内のレクリエーションの充実を図り、大人用の塗り絵・パズル等を取り入れ、生活を楽しめるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、楽しい日々が過ごせるよう席順なども配慮している。			

自己	外部]	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人、家族の必要に応じ、いつでも相談にのれるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアを通じて、会話の中から、利用者に希望を聞いている。本人からの把握が困難の場合には、家族から生活の様子・趣味・得意・不得意・希望等を聞き取り、本人本位のケアに努めている。	毎日のケアの利用者とのコミュニケーションや表情を通じて、一人ひとりから気持ちや意向を把握している。話したことは、申し送りや申し送りノートで共有を図っている。夕方になると家に帰りたいという利用者、夜遅くまで起きている利用者、携帯電話を持ちたいという利用者など様々であるが、否定せず対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間で情報を把握し、ケアプランに連動させ支援している。入居の際に家族の協力を得て情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の心身状態、有する能力の現状を把握し、職員全員で共有し、その人に合った支援が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアについて、本人・家族・ケアマネジャーで話し合い、職員の意見を聞き、介護計画を作成している。介護計画の各項目に沿って職員が記録している。	入居前に情報を得てケアプランを作成し、入居時には、プランに基づいたケアが実施できるようにしている。モニタリングは日々の生活の記録を参考に、3ヶ月ごとにケアマネジャーが実施し、サービス担当者会議の内容も含め検討・修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、日々の様子・ケアの実施・結果・変化等を記録している。また、職員会議でも話し合い、情報を共有し、ケアしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズを聞き取り、職員会議等で話し合い、できる限り柔軟に対応している。		

自己	外部]	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は、地元のボランティアに慰問に来てもらっていた。また、地域の学童クラブの子供達や、保育園児の慰問もあり、交流をはかっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を優先として、かかりつけ医を選択している。受診結果については、家族と連絡し合い情報を共有している。また、協力医が月1回往診し、必要に応じて専門病院を紹介するなどしている。	これまでのかかりつけ医の受診を優先しているが、ほとんどは協力医を希望しており、月1回の訪問診療がある。緊急時は職員が受診させ、結果は家族に報告をし、職員間の申し送り、介護記録等で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携しており、定期的な訪問と必要に応じて看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携を図りつつ、早期に退院出来るよう、利用者と家族の希望を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、文書を作成し、契約時に説明を行い、用紙に記入してもらっている。利用開始後は随時、今後の変化に備え、かかりつけ医、家族を交えて相談をしながら検討し、今後の方針を決めている。	意向を入居時に聞いているが、重度化した際には、協力医とともに頻回に話し合いの機会を作っている。点滴等の医療的ケア時は、訪問看護や事業所の看護師、医師との連携により対応している。協力医や看護師により看取りの研修を実施し、終末期へのケアに活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、事故発生時の応急手当等について、月1回の学習会で確認し、AEDについても勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署指導のもと、夜間想定も取り入れた、初期消火・通報・誘導・避難を内容とする消防訓練を実施している。夜間想定では、職員の到達時間を計ったり、消火訓練を行うなど、実践的な訓練を行っている。	年2回夜間想定も含めた避難訓練を、職員と利用者で実施している。以前は運営推進会議時に実施したが、現在は委員の出席はない。事業所の近隣は行政センター・学校等があり、事業所も広い敷地の中にあり、避難場所確保については協力体制ができています。備蓄はおむつ等のケア用品、水、食料を1週間分用意している。	区長や民生委員、地域住民を巻き込んだ役割の明示や緊急連絡先、連絡網の提示等、組織化した災害対策の企画、運営を期待している。

自己	外部]	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、言葉遣いに注意し、日々のケアを行っている。職員同士が互いに向上できるように、お互いに気付いたことを話し合ったり、指摘しあえるようにしている。	本人にはどのように呼ばれたいのか、入居時に確認し声かけをしている。生活場面では、21時の就寝時間をずらしたり、ゆっくり時間をかけて食事をしたり等、一人ひとりに合わせ柔軟に対応している。利用者に対する言葉の使い方も、気づいた点は話し合い、共通認識を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、本人の思いや希望をくみ取り、職員間で話し合いながら、実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、希望を聞きながら、その人らしい生活を送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれができるよう、脱衣場に化粧水やヘアークリームなどを用意し、自由に使用できるようにしている。また、訪問理美容も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握し、できうる限り満足できる献立作りを心掛けている。また、利用者の状態に合わせて、刻み食やトロミのものを提供している。	食事を楽しむとは「食べたいものが食べられること」と捉え、献立は利用者の希望を聞いたり、家庭菜園で収穫した野菜を調理したり、食べる楽しみの雰囲気作りをしている。また、お盆拭きやテーブル拭き、おやつ作り等、利用者ができる範囲内で、職員とともに食事への参加を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じた食事量・形態を、利用者や家族や主治医と相談しながら決めている。水分摂取が少ない利用者は、量のチェックをし声掛け対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師から、個々のケア方法を指導してもらい、支援している。義歯の利用者は、毎晩ポリドントを行っている。		

自己	外部]	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに、排泄の支援や声掛けを行っている。オムツ使用の利用者も、排泄されている時間や尿量などを考え、そ方にあった時間にオムツ交換をしている。	トイレでの排泄を基本とし、それに向けてケアに取り組んでいる。おむつ対応は1人であるが、おむつ利用者に対しても時間誘導やトイレへの声掛けを頻繁に行うようにしている。法人の理学療法士に排泄への運動リハビリを依頼して、積極的な排泄への自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すために、水分補給を強化している。また、必要に応じて主治医と本人に相談し、運動や食事で自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、利用者にとって楽しみの一つだということを理解し、入浴時間を楽しんでもらえるよう、入浴剤を使用しながら支援している。職員と談笑したり、歌を歌いながら、楽しい時間を過ごせるように支援している。	週3回午前中の中の入浴となっているが、無理強いないで、本人の希望通りにしている。体調により入浴できない日が続く場合は、清拭、足浴等で清潔の保持に努めている。入浴中は歌をうたい昔話をしたり、入浴剤、ゆず、しょうぶ等の香りで、楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の体調や、生活のリズムに合わせて休む時間を決めている。夜間気持ちよく眠れるように、日中の活動量を増やし、また不安な時は、寄り添い安心を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が内服薬を理解し、薬の内容が現状と合っているかどうかを、その都度主治医と相談し、過剰な服薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きなこと、得意なこと、嗜好品の好みをよく把握し、一人一人に合ったケアができるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所へ散歩をし、四季折々の花を楽しんで頂いたり、中庭で外気浴をしている。家族と外食へ出かける利用者もいる。	コロナ禍で外出もできず、地域の方との接触も少なかった。「日常的な外出」とは外の空気に触れることであり、庭に出てガーデニングの花を観たり、近くのお寺の花を観に行ったり、庭でのお茶会を楽しんだりすることと捉えて、事業所周りの散歩も頻繁に行っている。	

自己	外部]	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望を尊重しながら、お金の所持や使える支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や知人に電話や手紙のやりとりができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館バリアフリーでホールやトイレ等は広く、庭には野菜や草花が植えられ、収穫を共に楽しむことができる。室内の温度も夏冬とも一定に保たれている。利用者が季節をわかりやすいように、掲示板などに飾り付けを行っている。	天井が高く、大きい窓からは庭の花が見え、季節の移り変わりを感じる事ができる。利用者は共有空間で過ごすことが多く、空調にも気をかけている。職員は利用者への声掛けを多くし、新規の利用者には慣れるまで座る場所に配慮し、また一人になれる場所も用意して、居心地のよい空間を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を工夫し、それぞれが良い関係を構築できるよう配慮している。また、ホールにはソファもあり、気の合った利用者同士が楽しく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベットが準備してある。それ以外のものは、家族と相談しながら、今まで使っていた物を持ってきてもらい、自宅にいた時の空間作りになるように支援している。	居室の湿度管理、掃除は職員が行い、居心地良い空間としている。ベッド、クローゼットが設置しており、それ以外は自分の気に入ったものや、テレビ、事業所で作成した作品、家族写真、仏壇等見慣れた物を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には、手すりを設置し、自力歩行出来るようにしている。廊下やトイレは、車椅子の方も自走できるように、ゆったりしたスペースを確保している。		